

やけどの対処法って??



やけどとは熱によって皮膚や粘膜に障害が生じる外傷の1つです。非常に高温のものであれば短時間の接触でもやけどになる一方で、44～50℃程度の低温のものでも長時間接触しているとやけどになり、これを低温やけどと呼んでいます。

低温やけど…湯たんぽや電気毛布、使い捨てカイロ等



炊飯器やポットの水蒸気の噴出口でやけどすることがあります。水蒸気は熱湯以上に温度が高いため、短時間でもやけどとなるので注意！

やけどが起きた時に重要な事は、やけどの深さと部位です。皮膚について以下に簡単に説明します☆

熱傷・火傷の深さ	皮膚所見	皮膚の色	知覚	治療期間
I度	乾燥	紅斑	知覚過敏、痛み(+)	数日
浅達性II度	湿潤、水疱(+)	薄赤	知覚あり、強い痛み	1～2週間くらい
深達性II度	湿潤、水疱(+)	やや白色	知覚鈍麻、痛み軽度	4週間くらい
III度	乾燥	蠟色	無痛	1ヵ月以上 (自然治癒はしない)
	硬化	黄色～赤茶色		
	炭化	黒色		

注意

★対処法

①直ちに流水で冷やす(水道水で5～30分ほどを目安に冷やす)

⇒やけどが深くなるのを防ぎ、痛みを和らげる。顔など流水で冷やしにくい部位は水でぬらしたタオルなどを交換しながら冷やす。

②水ぶくれができている場合にはできるだけ破らないようにする

⇒細菌感染を防ぐ。服を脱がせる時に水ぶくれを破いてしまう場合があるため、服を着たまま水道水で冷やすのがよい。

③冷やした後は清潔なタオルや布で保護する。

⇒清潔に保ち、細菌感染を防ぐ。



やけどの部位はだんだん腫れてくるので指輪などアクセサリーは早めに外しましょう！



★こんな時はすぐに病院に行こう!!!

やけど部位に細菌感染をきたすと、損傷は深くなり治癒までに時間がかかるだけでなく、治癒後にやけどあとやケロイド様の皮膚のもりあがりなど後遺症を招くことになります。そのため、ある程度の範囲のやけどでは病院で診察を受けたほうが良いでしょう。特に特殊部位(顔面、手、関節、会陰部)のやけどの場合は小範囲でも専門の治療が必要です。

日本創傷外科学会 <https://www.jsswc.or.jp/general/yakedo.html>

一般社団法人 日本形成外科学会 <https://jsprs.or.jp/>